

神戸だより

台湾交流支援の会 2018.07発行 Vol. 9

多謝臺灣！

關於大阪北部大地震和這次大雨災害、非常感謝台灣人們對日本災民的關懷和迅速的支援。「報恩謝德」

＜神戸の今：梅雨とアジサイ＞ 武藤 龍雄

神戸では毎年6月中旬に梅雨に入り、約1か月間、じめじめとした日が続きます。そのうっとうしい気分を癒してくれるのが、神戸の市の花でもあるアジサイです。漢字では紫陽花と書きます。

アジサイが神戸市の花として選ばれたのは、1970年(昭和45年)のことです。神戸市制80周年と万国博開催を記念して、市民アンケートでも最も人気のあったこのアジサイが選ばれました。

アジサイは六甲山系に幅広く自生しており、美しく繊細な淡紫色、迫力ある花のボリュームで目を楽しませてくれます。また、多年草で育てやすいことから、各家庭の庭や町内の公園でも多く見ることができます。神戸市内のアジサイの名所として有名なのは「神戸市立森林植物園」です。広大な敷地に約5万株が見事な花を咲かせています。この植物園は紅葉でも有名で、土日祝日には三宮から直通バス(所要約40分)が出ていますが、午前中の便は毎回ほぼ満席で立ったままを覚悟で乗車する人もたくさんいます。



＜私達の活動：神戸台湾留学生委員会参加＞

6月29日 兵庫日華親善協会の主催で神戸台湾留学生委員会が開かれ、神戸大学ほか3校の代表と日華



懇親会の様子

親善協会、台湾交流支援の会、賛助企業の代表が参加しました。席上、委員長交代の報告と新委員長の紹介が行われ、新委員長の神戸大学大学院法学研究科の学生さんから挨拶がありました。その後懇親会に移り、それぞれの情報交換をするなどして盛会のうちに終了しました。台湾留学生委員会と私達は当会発足以来緊密な連絡をとり、様々な企画を提案して来ましたが、ことしも留学生が楽しく参加できるイベントを計画中です。

〈鮎の友釣り(2)〉 藤井 高 前号の続き

皆さんも美味しい鮎を、鮎釣りで有名な川近くの食堂で食べてください。美味しい塩焼きの鮎が食べられます。頭からしっぽまで、すべて食べることができる。これは、鮎が苔のみを食べているため、お腹に虫を持っていないからである。また、鮎の胃には、消化薬になる「うるか」があって、これは昔から薬として使われており、昔は鮎の身より重宝されていました。酒飲みが、この「うるか」を酒の肴として食べると美味しいと言っている。鮎は甘いスイカのような良い香りがし、昔から「香魚」と言われている。細かい雨が降っている日に鮎釣りをしていて、川から立ち込める霧がスイカの匂いを醸しているときは、いかにも桃源郷に来たように何とも言えない気持ちになったことを思い出す。



〈海開き〉 小高 功

梅雨による西日本大豪雨災害の直後、今年の夏は突然猛暑と共にやってきました。毎年激しさのます気候現象に地球温暖化を強く実感せざるを得ません。

神戸の中心・三宮から西にローカル電車で25分の所に海水浴場アジュール舞子(Azur: 仏語で明るく鮮やかな青の意)があります。20年前の明石大橋(全長3911mの世界最大の吊橋)建設時に造営された人口の海浜で、近くに孫文記念館と移情閣があり、台湾からの旅行者もよく訪れる場所です。今年の花開きの日は7月12日でしたが、アジュール舞子



での花開きイベントは小学校が休みとなる14日(土)に開催されました。

幼稚園の幼児から小学校の子供たちに、付き添いの大人も加わって多数の人が集まっていました。人口の減少が続く日本では、いずれのイベントも昔ほどの賑わいはありませんが、ぎこちないしぐさではしゃぐ幼児、たくさんの友達と輪を作ってワイワイ騒ぐ小学生、そしてビギニ姿も華やかな女性たちと、その雰囲気は、ガラガラとした太陽の下眩しいばかりです。

にわか作りの売店が開かれ、高校生の客引きの声も華やかに聞こえます。

小石ひろいプロジェクト、ヒラメの稚魚1000匹の放流他のイベントが始まり、参加するたくさんの方が列を作りました。一人3匹ずつのヒラメの稚魚には興味津々、ポリバケツに稚魚を受け取った親子が波打ち際に急いでいます。浮き輪で軽快に泳ぐ女の子、お母さんに手を取ってもらいながらも得意げな顔で泳いでいる男の子、楽しい・楽しい一日です。監視員とライフセーバーが配置され、クラゲ防止にオイルフェンスが設けられる海水浴の期間は8月26日まで続きます。

我們想把“神戸だより”換成更好的資訊雜誌。

您有意見或者感想、提議等，不管是什麼都請告訴我們。

編輯 桑田 邦憲 Email: sinopile24-japan@yahoo.co.jp (中、日、英 都可以)